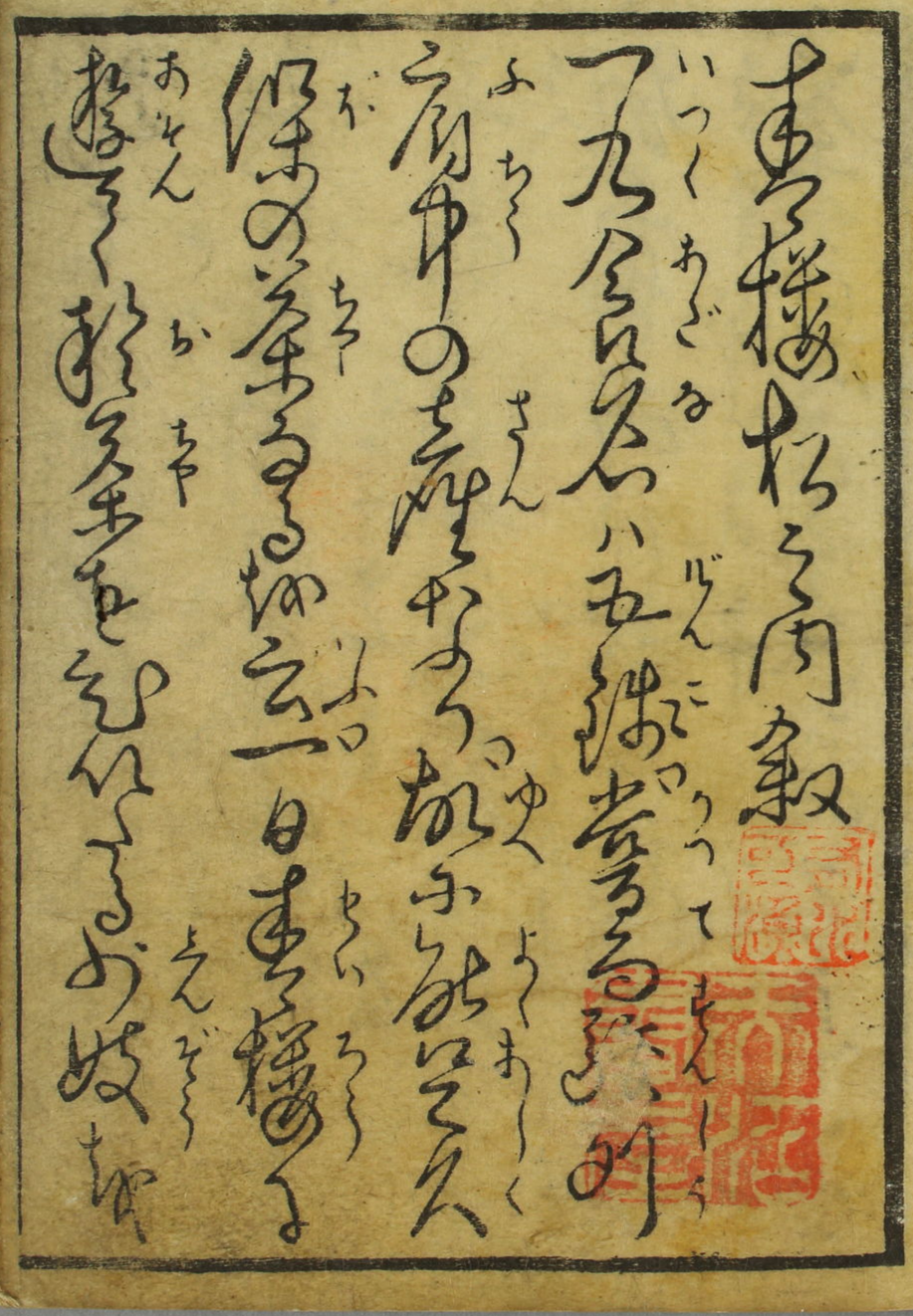
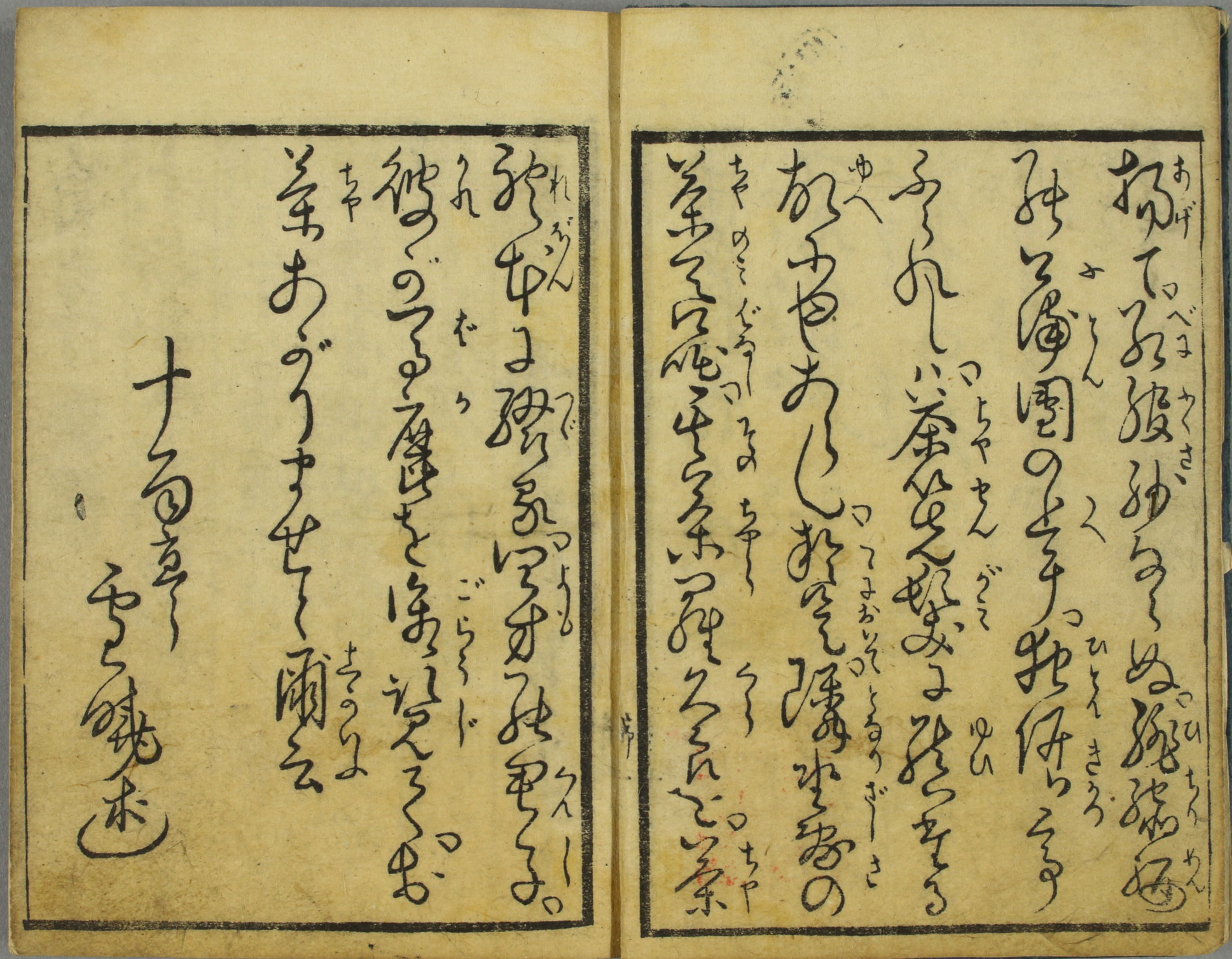
青梅打角

へ13
4293

新
913.53
798



へ13
4293
函 2
253
早稲田大学教育學部
16178
<2000-329>



自序

十雨亭の高陽子。余を謂て
曰はく、人は馬を鹿とせ、奈何ぞ
いはんや四百餘年あの説と云へり。
況や紙と潰さて。是何のゆえや。
答曰、人へ嘲る。おゝ摸芸でもあるべし。

大きなるを當用あるべや。莊子
曰。木は不材ゆゑ伐らるゝ。と
猫鳶は不材ゆゑ屠るゝ。の不
材の得失あり。本席一帖を潰
せば。楮屋は亡四孔の交易とさも。
狀半本攢物やば。鼠工は打立完

乃益ハ屋なり。孫高賢の男子。
早安〳〵と笑給ふ。其門ハ福来
まねく。敬て来まるあるざる
ごとし。出羽国土湯縣の街ハ蓆を
織て玄徳あり。東北の陶街ハ
蒙征と賣買治あり。ゆがめて

是者ハ猶く得数一徳ハあり利
ぬるもの。大黒の槌をそそる。寓
なる金ハ。彩玉と擇で按ふ。元
あ〳〵金の土をおなる延喜の金ハ。
半紙と拝ばせ給ふ。懐ハ納ふ。蝋家
業ハ情の所業ハ。と俳く。大都會

あるハ。金一朱ハ。金二朱。損をする
あれバ。徳と得るあり。ゆが頓貨まれ
バ。足下のごとき敏給者ありされど
利口の邦家と。浪を事始まるべし
る。る鹿よ。儲る。自己のなかと恨
むるハ。足下と。俳連歌の徒なり。

手
菊琴。噛虫の母。すきびと。不実。おろかなる
説と。著書。文。詩。車の滅。基く
ゐ。借問者。おきやがれ。索笑
示時。子和二年。戊子。孟陽日

十遍舎一九識

蔵書

ゆく年乃
うちのぞく
春乃
孤

法師
先輩
のうりの
罠を
うけ
めるる
紙くずを
和相

青楼松之裡目録

第一章
○虚よ仍て実情を竭を倡客の自負
第二章
○義よ迫て色男と狎ふ朋輩の志操
第三章
○愚よ還て意地の甘を倡婦の寝言
上件

青楼松之裡

第一章

十偏舎一九著

遠くて近きものハ男女の中と少納言云ひし。
十万億土の浄土よりも遠く撞木よりハ。
志かたちの城を攻る。初子の口よりの玉揚へ。
と伸るの鼠とやされど長脇ガ屁ハ猪と此
廓ハ宿屑とかよ。梅ハ兵の業手子とかる。
氏中花とちしてのうゝ水なるの情と雪ハ。

抹茶入の康秀。高麗の茶碗。よれ夜ふかしてさつ手
赴ひ。敬安の墨。玉山桟の花よめづる情よりよん。
ゴーグリン。ゴーグリン。ゴーグリン。
ゴーグリン間の遠。七曲の孫よ。伴く。假鈸士の型
ゴーグリン。ゴーグリン。ゴーグリン。
叫よ落ゴーグリン。ゴーグリン。ゴーグリン。

きさう大丈夫へ殺法屋敷ちう。飯名へ可向
まいるやのうどぞう〜りのり出家やへ入ましん茶や女房ゆく可
向さんげつ〜ちろさる下の主女房ゆく見へいろつまゆりまも
可向しの比、三年程のいろ出きおこされどうりへさろたりとも
ふぐんきん店の二ぜんぐ〜めひとありのこらくはてぞうれい
たぶこえいるりのあんたーどのそのおろとんぶつ。辰かやきこふやきん
はごとんハこどめりとものおしこい
り〜引よて主ゑまりの女房りゑ
えくられとぞうるよまして
〜こう可まりまりとびれまして時よまをんて
いるたぐこの下いさゑ〜でぐさんまんこ〜ろ

あるこのおるあんでちゆまりておりまりまいゆちおいでぐさりゆ今日もりゆ今る
おいでかさりやせう可出んおいこれでぐ代
たこときてふゆてうんなさい女房ゆんこあゆ。
これの冬〜一夜ちよたこさんのこたへこ
てぐごぐろゆ中さぐおこそれゆゆこ下こそ
もおきゆ〜どぐこそれゆゆこ〜いこぐあるのろ。
ゆぐるこいくぢの孫へよいこゆこたてまんこ

[illegible]

[illegible]

二人前[illegible]

時内[illegible]

[illegible]

[illegible]

図の又こちらの男がりゐて孫へ物を食のおやごと
ちうこと〜てゐんでゐるハ 図 イヤ又そりゝ来さかい〜
んハおそろ〜くふられるくつていゝア。なんのこと
孫へ。旦那切る中役〜うけこちんがこと〜いふりめご
太 こゝへきてんハ酒よりていわさるそめぐアル
こうびわさうこの 図 ちんぶ。作の皮色とちうことし
て。ち〜ぢよいハ 図 ちゝい孫へ。ぢよをたゝ物ゲアレ
ゆ〜うとこ〜〜 ト 内ダンナ〜ハ〜そ〜ゲ〜そ〜
ぐ〜〜うけてたうて 図 ろ〜ろ

この旬さんおめでうみごこれやうをおるさうく入つ
ちゆいまゝ〜ト 内ぶ〜〜〜よおいさつの内ちんぞう
子代様さんハおるでござれさまと 形造松川 このから
さんおいうんがりうそまうてお出りんをよ 図 ねゼ
こうもくいき孫へう 女房 今よお出でさぐりやせう
は内ゆ〜ゲ のとうの 図 女 おむりくよめ〜〜ゆ〜〜 図 の 内ぶ〜〜ろ
のまう世人 図 ゐでうみさうれゆ。あるさうく入つ
ちゆりゆ〜〜 太 アイ〜ト 内〜〜〜ハ〜〜きゲ〜〜おゝ〜〜ゲ〜〜
合ゐ〜〜〜〜〜おゝ〜〜ゲいでゐる

[の]ちゃくさんぞうしっぷんあげよみ[太]イヤ[ロ]しへ
なんごろ。ちゃい[さと]ぐのめまもね[の]リアきこへさちよ
ぞうぐもちりでかさぐの[太]イイちよぐもちゃいぐ。ロし
へりみろりちゃくべい[の]なぜぞよして[太]ぜぶ[ロ]ぶぐ
ゐ〜ちゃおりしろくゐん[の]ハテそりつアいくしもゐ
ちゃゐ[太]イヤ[わら]ゐの[ゆ]ゑ[ロ]へいやてこ。ざるしぐ。ぐを
ちゃちゃべい[廿房]おめへさんもきのこぐ。ぐ今よぞよ
でもいるし。ゆん[の]ちゃ[おわ]ぐ。ちゃゆんのあへんぐろよ

うしゆしゆいれもしめへし[彩遣]ちゃのきゆへん
ざんち[の]ぞてちゃ。ちゃちゃいあるめへちゃのちゃ。ちゃさん
ぐきのぐへくぐ[廿房]ひちゃけじんぞよぐろよ[図]今お
あぐうなされちゃしちゃ。ぐ。ちゃいへんちゃちゃ。ぐ。うを
ちゆ。ちゃちゆめへうやちゃ[トちゃうけ]ぐてちゃぐや[ウタ]ゑちゃうう
ちゃゆあぐへんのぐ。ゐんゐ。ちゃこひしいしちゃのむちゃびや
さのちゃゑちゃぐ。ちゃ[はん]ぐんぐきけもまうぐ。ぐてちゃうも
べちゃ。ぐちゃおさへついちゃ。ぐわく。[まえりのきゆ]ゑ。ぐきゆ。ゼきしちゃゆ
ちゃぐ。ちゃこういちゆのたちゆうゐ。[廿房]ひちゃけじんぞよぐへ[の]

ちん わく
ぞうあるう 図 すぐでんきやうでぜぜうちん 図 ソレハ
こうらいぎ
はちをぞ〳〵 トふいうるいまく 図 時よこうつでぜぜうう
しそうれ〳〵ぞう
やまぞ。ちゝよえとさんのきあ人ぺ。ぺのおつ答で。
たゞめその赤人でこうきうせんぐ。今のことと
そうかやまゝ。ゝトやかりひりもあるあるひ
ぞゝう。ぺうめへりんでも孫へぐ。うるゝとうぐいゝや
もまているゝ。ぺひうきあうゝ山やかおゝいえは
ぐぐおいゝうんとあげゝえんぺよ。うみゝてえうんゑん

でいうりのぐうゝ。その内なぞでうう。ひえあいて
いうれちかうまゝ孫へうこのかゝひゝやのこうぐ。ん
ぞうもうる。おいゝうんよ法けてやうかうゝ。それぐ
ちあうちあうゝ。ぞれぞんどみも赤よみゝぺうて
ぞぐうぐ。ぞよいゝこゝゝやゝ。 図 ゝこうゝ赤有
あうゝうぐぞそんるゝちゝうぐうへさうんつきそのぐうわよ
ういゝうるさい 図 イヤそれでれうるん。ぺ。流さ人 裏
へべうぐぞんゝぐぎゝね。そのようようぞんりゝうて

どふまるものでしそれでもそんもるさうだ。
されの者人ゝは不ゝ多おぢちまりまもと因イヤ
そんるゝやあるまーまもとへんトふられりくつそうるこきく
の縁るれ生ハ変しーだくてーこ。三ア一たんあぢん
るせ人トまくくくまさぐれとまもちやあの甘ゝあゝよの
鯛のあるるとハ四ゝまりそだくくくくぐまくくしまくしちぐくく
あるとし因イヤそれいらべまもまん不白さるりとしハ
そうみてもゆりまくくん因出ようくぐりまんいるる
因イいいなるものくくんるくくくくるりんでいこぎ

らぬ廿六月一ぐいや三ようくぐぎんまもと因イヤあんまりう
人とだるりまくくぐいくふこーらァ男まりめぐ
りりりるるるのあるるるるりりり

げきやく人ぞう〜〜。だんしゃくとるたりのさうる
てこぞうやとゝ【太】イヤおらはあいまつるんぢゃ。ら
だや猫でんこぞうね。こんるりのぢゃりれうもの。
あんまう人とだろふ〜〜〜トちゃくよたゝゝゝゝゝゝこの
きまくいのでいやのさんだ
とゝゝゝゝゝゝ

第二章

世界大見世初買の表とまん。家の間の意味
うづるく。三琴の鞠ぐろ。故人一降ぐ勢地の
富士の日の出よりひくく。安市のよの鶴寿州いろ
年の内改揚屋の実なるこの世や。山水色よきと
ちうの茶灌ひうて。死い紅のさらく巻えんど
ホおこう。揚ふうりの表ぐいまぐ酒のきぐく
月くぐ。市のおうく東物よりこうり酒う

の番うしよひくく海ゆの鞠きぐ松のちや
ろうしいづれ茶なるとうてうくくまる花
街の佳廣。初長姓元の絵とうぐ。よりそひ
とはうて。茶まろ毒の表ぐ　花ぐうん　唐茶
いしゃくいろいろ面きまごうまくせんぐづのゆいやまこんち
のきんうるの小茶茶ひいちやのえのわぐんをくく酒はサ二三
きやきくくうてよう。火ぐうよりられて物りりの毒ひのある
くいまて火ぐーまて灰とつきのぐそんこだんしんまくうぐくと
りぐ　番形松の戸　おいくんちあく。まひバイ。やへおとうん
ちんく　亭松　ようちやりめくいきめく　松　ゆぐくそれ

ぢやアとるよざんまてまろ
なんまてく 圓 なんぞういろそ。ぎ。ちよくぐるく
てるういやんよ吉田屋の人へりよりいト
ちうく 松 てを者いすゆざんが。お出なんしてさりん
でざんまてうぶ。そのてもぞよるるいせうとちも
いしていてよまいうてゆりしてぐ。かんよ義
さんのかくぐまちぐてい。そるふるよぐらう
さんを。ぢやおめくさんどしよまんしてトおりうんのる
えぐぞてう

とをそそもも
ちろむく 唐 ちろちやアまろきもちてよぞんぐ。これハ
かりいくなんしてこてぐ。ちもようつていろそらう
ざんを 松 なんざんまてく 唐 義さんぐおいぞるん
してもらるるびあげてられるる。作男やうう。
そそんげつてめてりいてこぐ。おてよどんぐりろそ
それうてう。なんぞのうぐのてぐ。ひなんしてと
ぐぞよもてらうでなりいせんぐつも義さんも。
まちがいてこぐあんるうんを。ろて。秋よその

ヨケもいろてさこ〜なんし〜さぶ竹田やのもろ
ひいきなんし〜ものこてァ猪ャきけどんさきて
いし〜ごでいよヨケでこけ田やう〜あんなさと
とろてよこ〜いろこ〜ろそこらでるりい
せん 松 ナニそりやァなんそのまちぐへでちざりい
あう義さんまらぎろそこいよるへおざりい
きあへてろちいちりてもりいまそそ〜て
いろでもさるへさけぶやへおぶなんしてまるよ

あぐんなん〜こてァおさりいせんりのと 唐
それでもおそよどんぐうそうたなんをめし。
り〜ゑ二ちいどあ〜れなんをよるるこがちざ
アい〜ちゃァやんまろちゃアトりきて 松 ヨヤ
うもて
ちあへさんもきのよりへ又ニちいとこあ〜れな
ん〜てもおいなんをそこのできへせんでいなし。
てらこまなんをこてァおざりいせん。ちあへさんが
そんるよやさいでいるなんをちどおこるさんのこ

めへとろとろおざんをろ〜〜ぷちとろたくしるた
るぷなんごろとろちまでぐぷろとるるーくるるい
ーーとトゆーめが うるんてらう 書きのようぷらけごやへあるうい
ろろ〜ぷこのあいぐ友さんのとんえ出ーーと彩ぐ。屋川
たろうとでろるごるおざろいろ。毎日仮のあるあ
と。秋さんへ屋けびるおくくろるゆゃ。伏ごなく
ていろるいーせん。そーてこあ市よきなんーーとろた。
るーらとまるまろていろーぷ。ぷ十二友さんのきてーい
あてゆゃアるるいせんーぷろていなんきとろくぐ
ろろ。なんでもごゆそたゃくく友さんよあって沢
ぐきてろろおざろいるを 松 ソリゃア 吉さんゲお出
なんーーろ。ちーらい友ーーーーとろーぐ。そのう
ゆてつろーいせろ。そんるーーとろるよんせど
とこ。ちゆろと。毎屋ゆへろてお出なんーる。
ぎちろーるるろるんよ成ろあーれるのろ。

きうりの中まで。こんなたちかれたちかれとうり
あたねむし〜ごロ〜やうひ〜（はれおちくんうやとる
とびやうしうつく）
ろのそ〜〜よ〜〜〜〜〜〜してちんぢ〜〜うろとひろうれてなうの
てうく出ろうろおろ〜〜ろおだんしんぞろ〜〜ろうろうがけそいろ〜とうろうの

（ぢ）おいろんいく（拍）今ちゅうの千いろ〜〜ろと（ぢ）りく
今作田やいつてめてうやう〜〜ろが。爰さんがお出なされ
きし〜〜。それようしてい。爰さんの出（ごろんぢ）動ろくろとと〜
のこ
あつてもくやとろ〜〜。作田をへそふやみ〜〜ろ〜
ろけ田やでもろ爰〜〜爰さんへうけゆんまきぢ今

まらちがあらぬ〜〜。こりゃア。ころちの漢ぢ〜ろう
よつて。おれまるまろ〜〜ろ爰さんへそかてられろ
〜〜ろ〜〜でだぢりきまそが。内弟ぢやうまり〜くて。
ぢ〜〜ぢまろ〜〜ぢもげ大めいまく。ぢろ自へせろろ〜
お出ねろろとりんぢ〜〜ろ〜いづれおはれヤ生せう
ぢ。ぢ〜〜ぢでおめへさんぞろ〜〜爰さんへそかろてト
さろうせぬう（拍）こんさァそんるぢ〜ぢ。ろちぢに
ろ〜爰人はいれいをものだ〜〜ぢ〜〜ぢいを人ぢる

[ツレ]あねさんも久しいおなつかしのこと存じ。ごぶさも
ようさまもやふくんが。まうさるるいそんるるまぶな
そうやでんをせうう[松]ヤ。ちさめのちや屋
ぎやァおざんせんう。こんさぶねも姉さんへいかるも
いおざりいせんいるよくうんぐべてもあさろせ。ハリヤア
姉さんゆやァうぎ〜。ぶねのきや人でも姉べ
おいなんをうう。ゆやァ。らるさァ人もあるうの
ざんを。ゆ茶をいるいせうのこと存じ。こちく来

なんしそこんさ〜もまそんるる〜をいり[松]ちゃァ。
ぐべぶんがるいと。おりいなんをぶろ〜。うん
ちゆておううせへよ[ツレ]それでいないせうぶでも
[松]それぶう〜〜けぶやゆそふいうろせへよ。松ヤア
〜。コレてめへ[ツレ]ちけどんと。竹田やへいろての姉さん
をおつれやてきや。コレサ竹田そてるぶろ〜ちゃく
いう孫へう[ツレ]ようさうやァ。今茶屋屋う〜。ぶい
らんの丈へよりべりいう〜ぶうのと[松]それぶう

おいらんよぞうとそしてかやのそしてかやの
てきやぞうたやくいろ孫へうぞるくまるとぞあ
大こく毎ぐきそも見しーやァ　孫へ　況サア　松次
どんあいだろせへよトうてけどんとうぞ彩色
ぞと長いのとちをでして　松まつ
ひやアこれるトうびくて　伊ろさうたそろとごよトうつけてろこの又
久ーきまーじまてぜんせいのむをこうぶられたどんぐつかいたし　芝こいふきて人
てちろこうへ美ちやみもくくぐるうんるるぐだうしのとごと
とう。ちいてちくやもさいそくとーぐてて。　とうろうさーき　ジャン
ぬりやへのりとけみさてそくハたうしひうんん　うまんくうこ　レヤン
ハーあさまゆでハコトーやなんれくむ孫よまん

くのりもむりうくえぬ　ジャジャレヤ　わどるくまんづるやのきや
ちやの女ぞう。ちんそうまるふとひうれてそうる。あとうう一弁の
ちくこうえちいーんなのーやーもどやくくとざーきえれうう。そうい
次ぞちのそぞよさそりう。ふとうんでるくと。屋六あーのるうまもクう
ぬひのさくそひろげて。ひざのよへてどういてるくとぬちうちふとうの
あいうさちんぞう　若者　ひとつやーあがりませトちくとえが
ぞうぬへさそうる　まてくさう
づぬとえぞうさちくえハ
ひとつうりてろくうー　太　屋ちう　屋どんさーまんべれ　屋まづ
ぞんなへ　ちう廿屋　てりおめへさんあがりてぞうくえおあげ
なりさんませトあいうくえさやといまくくえハ
公代ちんぞうあへさづぬよ及ぞ　屋さ拍ちう
トひとうのんできよろうくと　若おとうづぬいさーやせートあいうくこのしんへさを

百こんやァ。ごうせんよあついだんぜ（ト大あせ）
松のとさん。今のことハ（松）アノよ。ちと。おゆるし
なんし（ト大ぜんのうしろを見り。おゆるしんのそばへきさり。
ひそくさと中。こ松ハ今のうろ男のそばしろり。
内ようのもの。赤倒の番松のぶ。このぶのすのをぶし。
文ぜどやくと言つれてあつ百のれいこきさして。若ハイ（ひやく）
ちゃうどもとあしつれまし。ぶ向さんこで今ハ
ありがとう。ぶんちまと（面）きつれおさまり。
初ふくらふ。ぶのりめぶ（若）おいしんぶ。今のこと
ひどふいこしませう（唐）りふいこと（若）さるやうり
松のしさんちろしく（ト大ぜんのうしろひそくさと中）（面）の
なんぶ。今ぶァ。なんるさんぶ。おそこでもさて
百。こうもさと中ハ（百）七夕さるぶ。やるふで
もあやしめんし（内ようのもの。ぶんどう。まのくらけちて）（ト内のもの）
とるも出めんト（ト中ぶくかんりて）（ト中廿度）ぶつふ
るさろと（ト百）ありしこ。ヨくてるいせんる。やメてお
らんなんし。ちろさんぶ。いろぶもつれて来なんを
人ぶんをぶ。こちもまろやのあくと。いろ。ちる

ホキ和ン〜ておとんでいなんをとんべそのお孫
おくさん〜ゆ〜ぐぞよ〜てきなん〜ゆ〜今
二ちゃへおぐんなんてのみくきうれもーゆへこと
とうておだれなんをうう〜あんへおれさるあ
てちりてうなん〜こりのをそれよこうがく
しこうてアレおきてなん〜おのこうざん
まん〜ーたのうちちうちぐるり 図 こうハおり
ちんこしおめんうこんでめんへおぐるん〜 トいてうちう
かく出て見

れバ大せいつぐ〜うまれているあきゆ〜人のうくさうあいてうちてよちちよ
あふ〜りて大ゆ大ゆ大ゆうちうちのぐせうちうてざうのごくまうふあう
大せいとあ〜のりひいきのけ 女 コレハあんだうこうやアとんべいきやアぐさ
やちうめといさ〜やアぐれ出せ〜こ〜 差のり
和ゆあんをあうやを。ちづうよ〜ゆせへ 図 ナニ
ちづうふ〜ちゆも大のこうをもいるりんくこんふあ
まへちょうこい女じゃアゆへハ 図 ハテちゆせをこ
こなまうちゆアりのぐうこうやせね 女 こうちも
さうぐてへこもゆへぐ。ときいてちんゆせへアノや

ろうめんぜんてぐろうらうがとこの弟子で亭主
とうるるくまろとうとうゥイアノ旦ちがるんじゃ
りんごうとそれのうまうあざきやアがってるも
ひるも肉まやアあやせん船さくらいハまやア理
がきこうやせんがまぐさ大屋さるみのるちんも
ゆうべ稲くらせるよ毎晩よふけるゆ路と叩きやア
ぐるぐ。たるのくまめんきのぐくでるりやせん
図こるおめんぐりつこもぐ図そんるこちやア

るいまぐきんてくんるせぐりもも出居のもも
らひがあるこうて。居の旦人しもの供として。
いうあやアなるゆ稲へぐきすのぐ稲くるやアがる。
ナよりくぐそれうこうあのやらうめぐきそうる。あや
わ
雲の布ふよし。ナよりくぐ羽ちよりうりうナより
くぐるちぐめんちうのあるせとぐ絶子の常
とありてこのゆうありしぐいれ旦人てきせて出こ
のぐこるぐそれる居の旦人しもへぐりよ旦人りて

いさんしやるよ。（ぎ）ぎやァあのぢ〜ぢうめだろ。
あ〜よのこアやァ（ぐ）ぐりてぷ〜んぷろつはけやろ〜
あぶ。どこのまろ。ふ〜ひろ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
とろとこぐあるりんぺ。ぺろいこせでいつでもこむ
らひ〜つて〜ぷ。その（あと）ハゆ〜ゆ〜よをりこけろふ
のゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

いよ〳〵こつてう人まごつている〳〵 女 そんさそして
あれでも。もへ〻ゆさうろ元よ 若 サア それぞ
く〳〵。ろくまろておろ〳〵 女 そんるろ
りへつさまちぐへぐ。 若 そんさ。お
めへぐきるさる〳〵。おたよこそく〳〵。ぶげてきへ
ものるまろさいる 女 そんる〳〵ろちもりへて
やしゆう。コリアアぐるさ。おやうまゆうぐん
ゆ〳〵 若 ソレまゆぐひ。おちそおゆと 女 ハイく

トてねぐひとひろみまぐこまおびのあのぐろ〳〵。ホイこれハトてろ
ゆぞよ百文ものこれ〳〵ろ〳〵ホトところ〳〵〳〵
こへられてゆりく 若 ハ〳〵〳〵 しんぐだけものぐ トざ〳〵きまた
きんまトへあろる 若 ハ〳〵〳〵 しんぐだけものぐ トざ〳〵きまた
づれ。おさるゆりをうぶうこまもて 三番目 松の戸さん。ゆるこぐとあろちろ
へおろれゆておろんるせへ おるる 若 ハ〳〵〳〵 ろちろへおな
ゆんし〳〵トろろこへぐろうと。ぞ〳〵ぐ〳〵きへつれてれ。ゆ。ゆ。ゆ
りのこと〳〵ろ〳〵ゆ。ゆ。ゆ。

こアヨーるゐれていよのゑうの　ちゃや　ソリャ　ゐへさん。
ちれてこーこさ　この　ゆきてらんなさん。このあーふまさ
ーこれ。うのヨーごわうものとうけちつて。消して
ちまてーいある。角丁のちつをぽめへのちつてる
ーこうのヨけごうーぴ。ぴーちゃ。ぽうちへまさき
ゐへすんごんてぴろーーちゆうこうとゆうこうれご。
きうごよーこふごーぴ。こ　こるせへちんるるーーて
ヨーいあうこうーーートうでとまうるゐ　ちゃや　ヨやさごで

おあううこうこうる　この　あついのごんう。ゐねうこ
こる。うーーーーけ内ちごうゆ火のきくてあるきちるとうこうこひ
とごれきちるのうーーとうこひてごーーーかうる。
うれこふゐーーぴーんのようるうーーむちーぬちう
ぎうておーーよてぎうーーーぴ。　この　そーして
ヨーーるあうーーゐゆ。ぴーーーあーこおりへ　ゐへ。ゆう
ーこのちーこるぎりてうーこうこうるぴへまーいちく
ーーゆーーあーこ。うーーーハーーーーーーとむちーーこるうでごーーあーと
ーーーーーー

そ。庶ごとけよりまつ。ーとはぐひは
てそそたゆう
る。おやまとこかすれせ 回アいそく
浮田四平の国よろう。美男ハ親ハ。ハんろ
あ。ハ。縁の旦員ハ男ハ坂女の後援ハ
なりそ。何時でも中庸ハ。まで。ゆる人
なり。故ハ句の西ハ。ぞこの戦ハ
ふこと。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ
の一法なり。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ

第三章

佐久四ハ。作田ハの中ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ
ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

おとやぎ
あるく物てのんでごろくらるすでぴつぐけのこつぐ
きでいるぐ〜ぴおへぬくらくひわけぐぎらいおいら
もゆらら〜〜〜なうこと 松のと るる〜松さん。あれ
ちゃのお指ざんとりつてきなうん〜〜いつるるぎんぞう
とりらきさうざでぬの 蚤 いろりのかくぬれへ猫へう 蚤 松
つぐゆれとぎだらくへうける
〜〜つてめてりいせう 吉コウ あのこいうぴいりつて
くうアや 吉ちやす 庄 ちそよなされませ〜トてきあのぎん
ぬ〜きでのちやらんよ 吉コリやアちアくよぐいぐぴ〜ぐるよ
めとりつてりぐす

何うゝゆゝうさふぴんぬいあつぐるるぴいちのろ
ぐおろるぐうゝぴ多ぐとも敬さめどやアくへゆく
この子よハ何ぐあるぴ蠅へくくりちぐのろて
いゝアア 吉ミ ナニそんるりのぐおざりいせう 松 鼓ゆ
のゝざんまそハるまゝ 吉ちゑ こそよおあぐるさ
いまセトつぐゆれと 四よのもる 吉ドルくシやこいつハ菜なろぐ
ゆうじん
鼓をのつるゆれぐそよる 蚤 よくいろくる
こでとといぴおいゝアこのくくゆんぐぴつちうめく

吉ドレこうがようぷ。ようこそまいり
ふるうの客さうくゆれのうくとうめつう
いまりんで吉イヤるぶろぷもちいさぷき
うぐこまいれてぐゆれのうのんへぬうばけ
なんざアよくあうちんぐ客おきやアがれ男く
ヲもく吉おめくぐもやうさ極へう松おとさん
おあんなんせんう吉女イエとさうい出ゆん。
りまぐこてふぷうのぐぶんまくく吉

ちるるうりうコリやアヨろうちぐ大きぶぐ松おめく
さんへちるるうりやちぐぐこと。おあんるんをおやく
よよざんまるよ吉いめくまくい反歯ぐこいく
こてうくく園ちぐうるよさろせへ戻ぐうろん吉下女
松のくさんぷおいくんうへ松今よおりでるんせう
吉女りよおつりうよいくこくしやせう　トさけもかさま
そこてくくりうくぐうる。コとうのすのきうてる。若ちさん
つくゆれませ吉とぐぐく吉女さやうるぷお体

かくさんまを【吉】ほんとうに【吉】おのこさんお
このんトまを　ト　男子みこさまハうるはしきさまへおちつく
たゆひけるこの浮世。漫々と流るゝ。
按ずるに疫癖の笛のちゝ恐びあゝ格子の
おもゝ〳〵おもりれいと破くしてゆぶ。鄙
夷のあゝ。はよ死者の拒そゝ拒
だゝり。席下の見まる次第よ深く乃易の
解のあゝ。嘶〳〵〳〳〳〳。第一拍子終消

名の理。誠ら乎一物の美よ解ゝ
名代とゝゝ【愛子】こてぶのゝゝ海をゆるゝ。ゝ
してまゝゝりまゝゝゝゝ。ゝ
いるゝゝりしんとうきおゝして【歌】コレゝ死ゝ母さん。まゝゝを
しゝて泣るせゝらゝふあゝゝア【ときハ】目をこまゝゝむゝゝ
ふびゝゝゝまゝぐおゝんなんせんゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふせゝいゝゝおいゝゝんハまゝぐゝゝ【歌】イヱ【とき】ドレ
ちゝゝゝかゝてゝゝゝゝいゝゝやゝ【歌】コウついでゝ
でもゆでもいゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わどるなくぎりてべやのちやどうんで
ゐるづいておいこんしやじとあけて 唐拉 こんこと井さん
あつちくきとうけておらうんなのんこ 図 アイとうけ
らんふうこんのこんへけりしく おぐりてぜんつるよこする 図 アちやどぐれこアトうきいれ
こそうとぶこてのむおいうこんぶきくのろよ の中ゐく
いれてうこめこちこやこうけて 唐 やこやアのと
おあどんるんを 図 ぜうのうどう 拾丸さ 唐 ヨそうこもか
うんなんこ トうこいを 図 ドと出こてやろうトうこ
ひつこる こまるをひつたりおりてこうぐうこられのやこを
こうれるこやこいこのつりていられておうる 図 ユレソリや
うきうこどやアゐへりる 唐 うやわこやアまこむど

キうこいこゐ トふうこんのこんこ出おんどうのうげへうこうこよむ
きこよべやもちをあげてゐどこうこ井のうちこいけてゐんのこハ
ゐるゆべてこうこきこるふここアんへうこ 図 だうアせどこちゐく
ゐへう 唐 ゐこう ゐるんこ トやこをこうんでどんくこ
ひれされわぢうてゐうこ
ぶこうこれのわうこを
むいてこをこをこのむ 図 ユウひ なんどぎさるのおこるも久
こいりんどザアこうへきこて ゐへうトゐを出こをきせこ
みそおりのさるゐこうこ
るこセ 図 ちいてこうこちへわへきちどへご 唐 ヨうんちやア
きちどへよなういここトきこうどのりここ出こるちやうん
ふこうこようてどこうのこ と入こうこをかこをこちやうこんハ
ちやどこうけうこゐる 図 いうふてあへのどこれで ゐへ

とおりつてぴんぷるよーてーとよびてあつさ
ぷるぐーとぶーてふぐおらーんハ園コレを秋の紅葉で
ひらひらめらーとむらそるーとーとく
ぷてーとーそるのーぞれあやアヨけがあるハるーア
こりへきるトせりふてとーとーとーとうーとーとーとあるハーてさあるの園ヒイーとーとうーとーとあるの
ひざくらぶり園コレこのやこのヨけるーごつてーるーコリやア
ひさーいあーふきてこふこでそのーちいあそころ
うちくとーとそふあーふこあーー紅葉いる園うそと
おつれるんーーぴりやア盆ひさんのつ紅葉ひざーちあり

しーりいきーうーぴれとうれこうれーーやいきのちや
おざんせんがぴよくーうんがくへてるごろよぎんーーぴりよ
こりへいあるのごきーーらよりのぴらーでなんをやーーの
てーざんをりのとぴんコるヨとーとーやアぴんとうーの
ぷーーぬのよよコぴりつてもりいをーーぴれ句段
日ぴそのかメこうるーうーうけぴーのーろーぴれへの
稲へよよふーーぴろちがあうてぴきーーけも伍
もうるぬーーのるりへてしーーてるこーアぴろきろ

てちいでなんをじゃァおざんせんくとれよ弁
へおいでなんしちゃァぷろちひしゃぐらら と
いさしいをよのでぷてしゃぐろてなりいせんいる
盃てやァてそんざぐぷさいちどや二どいろとろ
てぷらいるりんざ 圓ァァ変や二ででこんをう
るれしいあがめてりいをものぷてりろちゃァ
たりとちちなんしゆうがぬしも初よの内
へもでるるとしなんしてぷろちもいろく

おせるとものなりいしこぐ今しゃァ さびくまとう
しうんぱくでぬしのはそぐうのぷりいこも。打明て
こんさくちまいちまいをものとぷろちもいとしい
ぐあまりていろくしこころばくとうこちいを
ちぷんは閑男ぐおりろておりいをぷめへさん
よハぷおろんさんしらんぷおろこさんもあんるんを
りのとぷろちぐ女房よでもぷなりよしらんぷで
いなしぷなよこのしこも祝くこせきぷんるように

ゑとゆうものとぢくしゃァよびんぐ〜おうつて
おくんなんル〜 [図] おりゃ〜おやまろ〜はのち
さろぢうぢそくへいく〜めくうぢりゃァゆうろん
しゃくうんるせく [唐] きくいせんぞんるよちゃく
あやまろなんをやぐぢぞうぐ〜ろてるめせん。
あのゑぢ(ぢさらう)ゑるよ〜〜あくの孫へ女房しも
〜くいまぢおめくさんぐぢろちのし久おるん
をこくァ。盃りさんのちゅ〜ぐもぢいてゐ出

んしゅうるぐのきゃく人とろ〜〜ゆやァはしめ
ぐぢ見くせんとろよるぢたろ〜ゑの孫へゆぐ
ゑるぢうろ〜ちるつてぢゑなんを人のゑもぐ
きれくせん [図] いくらぐんるきゃべれへろちゃァ
ろくのぢ盃りぐつ見ゆ〜いよりんぐゑさゑの
ゆぐゆぢせくなくちるも。今ぐりれァゃァえ
うくぐ孫くるさ [唐] ゃゆめくさんぢつちくそんゑゆ
ぐろ見ゆとつけなんをとてァおざいせんぞくく

こゝろぢうぷゝれてつきとおもふ人でもぷゝ出ゝ三(せ
んぎ)ぜんぎがあり口アぷゝ口ぐゝぢやアおざんせん
そこがくぐへのはしめおざんま園ア口やうにし
口へぷゝいれさへせゆやアぷゝぶんハわ(ゝどゝゃわ)へ
ろへ園おめへさんハぷゝよりろもゆたりいうり
ちゆろよ園イヤいうわへゝいろまやアぷゝかふろん
とうよいうわへゝぷゝこゝろまろゝぷゝはけゝいゝ
とまろがゝ園又わゝるぷゝまされいまろも

れへせんがぷゝよりゝておろんなんをアやアろ
ゝアロろもぷゝれゝうざんまろんまりふ
おぢなんをなへ園ま三いくゝんぷゝんるふゝ
ゝりのとまゝゝト分ハうちれて唐ろんまこの
あゝぐゝぷゝねゝまあゝいゝまゝぷゝそゝゝゝと
ゝゝゝぷゝ魚ハ出ゝゝてもゝできいせぢ園イヤ
ふゝぷゝさつれ仆田やでいちどれまゝけとゝ
園それまゝいておまゝゝやゝゝぐゝおざゝいす。

わ〜がおいでなん〜てもぉおげゃまるぺぷらぴ
ぢぬのとんぺ作田(さくでん)ぷぅ〜ぷぅてゃぷい〜ぷぷ
いぷぷぷきぷいぷぷぷぷ。なぜぎんきん園をりゃァ
とんぎぷぷぷぷ。ゑぴどゃァ孫ぺ大ぷぷぷ者(それ)のをぷひ
のぷぅぷぷぷぷ

ん〜ひもーてきまいるんーぷろちぐはぐう
いさーいせう 園 さーそりやァおめくまらうと
らけぎとぷぎふーもちのかぎうーてふも
ちろとへりうてうるぐぷるんるーあまの松ぷう
ぐけよぷ仲田やへおりていうふらーぷちろとぎろう
でるうるーぷーらくてうんるぷーこうの内よりろ
てきろふぷそれーもむうるつぐうるーぷよー
よふ 唐 さーよふざんまーぷふらーわぐといせう

又まへだうでよふざんまう 園 ムーみまいるーう
てーどうう 唐 さろきて向さんぐぷりうて来てお
うんなんーこのぐおざりいとぷろちゃァこりやァ
爰さんぐおうんなんーこうーぷまろてきりん
と。松のとさんへへぷおめくさんまりーうこぶんふー
ておきいーこぷうまりうてまてあげんせこー 園
それーどやァたるぷうぐーぐう 唐 そのうまうよ
邪へお出なんまとと。やーのぐくぶんを接へきいせ

んぞくようけうりとぞくしいを 羽 十二ど五人
いくりんざ 唐 りんまつく 羽 ちれさくさ 唐 う
まーい 羽へト りもひーげるだうり
向ひでこさうりまを 唐 るこ れさんのあくと
おこーゃてきさうせへト おとこと ゆりてズさろうり
とよぶ とうぶりぶるメ
唐 りふハお出りんーる 羽 どかもりふハぴうれ
羽へ まざ礼ま出まやるーゆへト おれよりまする
なとひろげてびつさうとぶるーしめずくぶくの
おうろれうときゆーのうれうくこまうつける

美人で愛嬌笑て国を傾け城を傾く。
すてや深ざ姉眉と消む美感乃
情まハ鬼神も数ぶく。恨る西施行る
虞氏千元ざるる除情あり。されば近松
ぶこ組面の浄留璃を抱めるのハ雖別
の恨るりと喜こるも如ちのなれ宮戸言し
義ま克弱りのハ高能遊くりのハ必溺る。
雖ぶ死と時ま四面よぶ切まを刑来沙

乃後篇より高尾を入まとめくくり
めてそこのこと

青樓松之内後篇

跡著衣 仕裝

来陽堂板
全部一冊
十編合三十九著

青樓松之裡自跋

予嘗て家鬼なり。偽損料屋イ
蓋を盛る〜之。世間の上り
ものがたり。打附子の狗ホ掘り。面つの
一部乃部屋を賞で。洗ひ出す事
乃堅る掛軸。長たつの具帋 掛

あり。子、其の為に後援をなして、彼を
助け、妓の輝屑と振て。甲乙の二枕を
喜ぶ。子、彼に以為。乙、金盃様と
交媾をせむとす。甲、乙、合体する。
茶屋乃新造、曽て、妓女の振舞
自盃を飲て、死ぬ。妓女の酔夫と刎

が都に、倡家乃門巷、後宮と
忍ぶ。御の出井戸、そこと
ちるよう保。失宮、金裏を編
すきもの。優ゆの古度、絶べして。
田車の下駄の鍾、風べ。口中漆を
ぺんしゃ金うう止る。色、将茶斗が茶を

清我吉乃脂。三子ゑふる。歌まその
貝人間ゑ擾所ゆ。敵て化の封向
を雪ど。そ武切打そのめくなん
ゑ文を恐ゆて。故ふ余甘類ゑ。
隨男利ゆの情ハ冴ふる。金盃みゑ
男乃深ゑハまづ由て賢乃法

天子。於御諮あるハゑゆるし給へ
青樓伸衛濱屋集金ゲ
樓主ちおく

十偏金一九戯

戌春新版目錄　十偏舍一九作

青楼松之裡　全一冊出来

倡客五八幾子問　同

土日樓　風實這入　同

滑稽　素見敷子　同

右清之ゝ也ゝ出来り

913.53
J98
教育学部
早稲田大学図書館
150190260080